

中國插花 日本花道

主 編 山本玉嶺 蔡仲娟

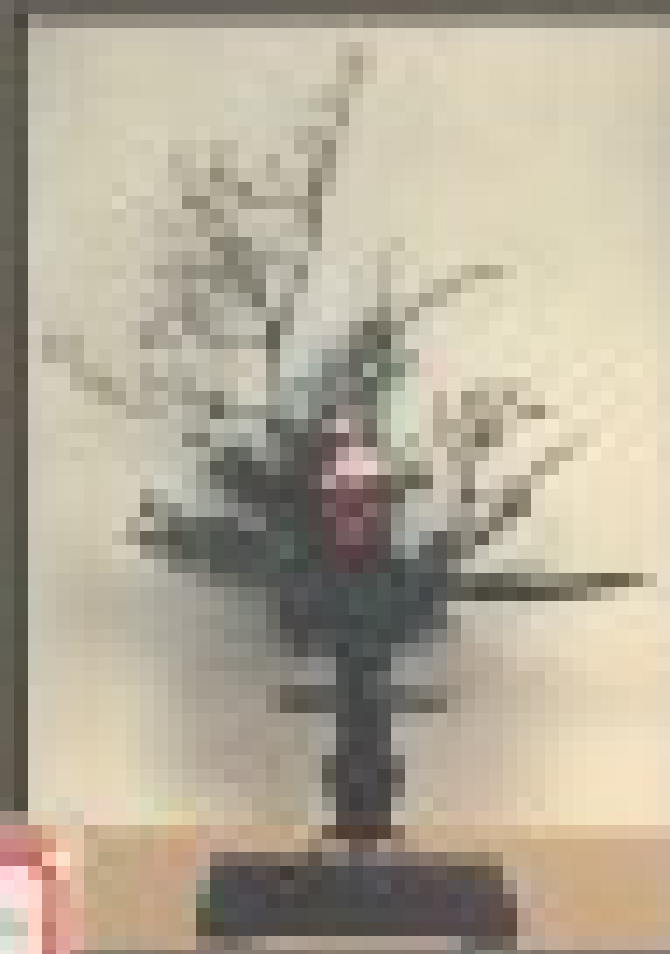


上海科學技術文獻出版社

中國插花

日本花道

（日）山崎敬三 著 王世真 译



上海科學出版社出版

中國插花 日本花道

主 編 山本玉嶺 蔡仲娟



上海科學技術文獻出版社



中国生け花・日本華道

S 688.2-64
2512

・中國插花・日本花道

主編 山本玉嶺 蔡仲娟

*

上海科學技術文獻出版社出版發行

(上海市武康路2號)

全國新華書店經銷 深圳南洋印刷有限公司印刷

*

開本 787×1092 1/16 印張 8

1995年12月第1版 1995年12月第1次印刷

ISBN 7-5439-0736-4/Z·716

定價: (精) 68.00 元
(平) 55.00 元

《科技新書目》363-254

祝 詞

上海插花界與日本花道池坊聖流合作，出版《中國插花・日本花道》，這是我們兩國插花界的一件盛舉，是中日文化交流中進一步發展的標誌。

中日兩國文化同源。古代日本向中國學習，中國是其文化母國，但在日本明治維新之後，我國又從日本引進先進的科學文化。我們一直是互相學習的。

我國插花藝術起源于何時，尚待研究查考。但從古代壁畫、墓葬、繪畫及其他文獻中可以得出：隨、唐時代，插在宮庭、王侯第宅、士族莊園和文人墨客的家中，已經很流行了。中國畫中，最為廣泛的創作主題《歲時清供》，反映出的就是我們歷代的插花藝術。

鴉片戰爭之後，古老的帝國大門被敲開了。西方的生花藝術也跟着西方文化涌了進來。在沿海大城市的大飯店中，大資本家的客廳中，都擺滿了琳瑯滿目的西式花籃，或瓶花。

也是鴉片戰爭之後，一百多年來，中國不斷地在帝國主義的武裝侵略下，弄得民窮財盡，廣大人民，食不果腹、衣不蔽體，連生存都無保障，當然談不上發展插花藝術了。

插花是上層建築，受制于經濟基礎的。六十多年前，我到日本留學時，花道也只屬於日本貴族、僧侶和資本家享受的藝術。近三十年，日本的經濟上去了，花道才跟着蓬勃地發展了起來，飛入到尋常百姓家了。

我國將插花作為一種專業藝術，這也是改革開放以後的事，也只是近十數年的事。這正如孔子說的“行有余力，則以學文。”人民生活開始好轉了，插花藝術也就跟着發展了起來。隨着我國人民生活一天天富裕，我國插花藝術也必是前程似錦的。

魯迅先生提出“拿來主義”，這就是說，任何國家優秀的文化，只要對我們有用，就應該拿來借鑒，使我們的文化更為豐富。這本作品集中，有日本作品 60 件，這給我們提供了學習的機會。

上海人民對外友好協會副會長
上海大學教授

杜 宣

一九九五年四月二十五日

祝 辞

この度上海插花協会と日本華道池坊聖流との共同で、この「中国生け花・日本華道」が出版されることになりましたが、これこそ両国生け花界の快挙であり、中国と日本との文化交流が一段と深まった証しであります。

本来中日両国の文化は、その源流を同じくしております。古代の日本は中国に学び、中国をその母国としましたが、日本の明治維新以降は、中国が日本から進んだ科学文化を取り入れ、両国は互いに学びあってきました。

わが国の插花の起源がいつ頃であったのか、更に今後の調査研究に待たねばならないところですが、古代の壁画、墳墓、絵画そして文献からは既に隋、唐時代、宮廷、王侯の館、士族の荘園また文人墨客の屋敷などに見られ、かなり流行していたことが窺われます。中国画で最も多く創作される作品につけられる「歳時清供」のタイトルこそ、歴代の插花の芸術を表しています。

阿片戦争の後、古陋なわが帝国の門戸も遂に開かれ、西洋文化の流入とともに西洋式の生け花が入り、沿海都市の豪華なホテルや財閥の応接間などに色とりどりの洋風の花かごや花瓶が飾られるようになりました。

また、阿片戦争後百余年の中国は、帝国主義武装侵略によって貧困のどん底にあえぎ、ほとんどの人民が食べ物にも事欠き、着るものとして満足に無く、生命の保障すら与えられない始末で、插花芸術など及びもつかない状況でありました。

插花は上流階級のものだけに、経済的制限を受けます。私が六十余年前の日本留学時代、華道は日本でもまだ貴族、僧侶、資本家たちにしか享受されない芸術でありました。華道が盛んになり一般の家庭にも流行り始めたのは、日本経済の発展をみたこの三十年間のことであります。

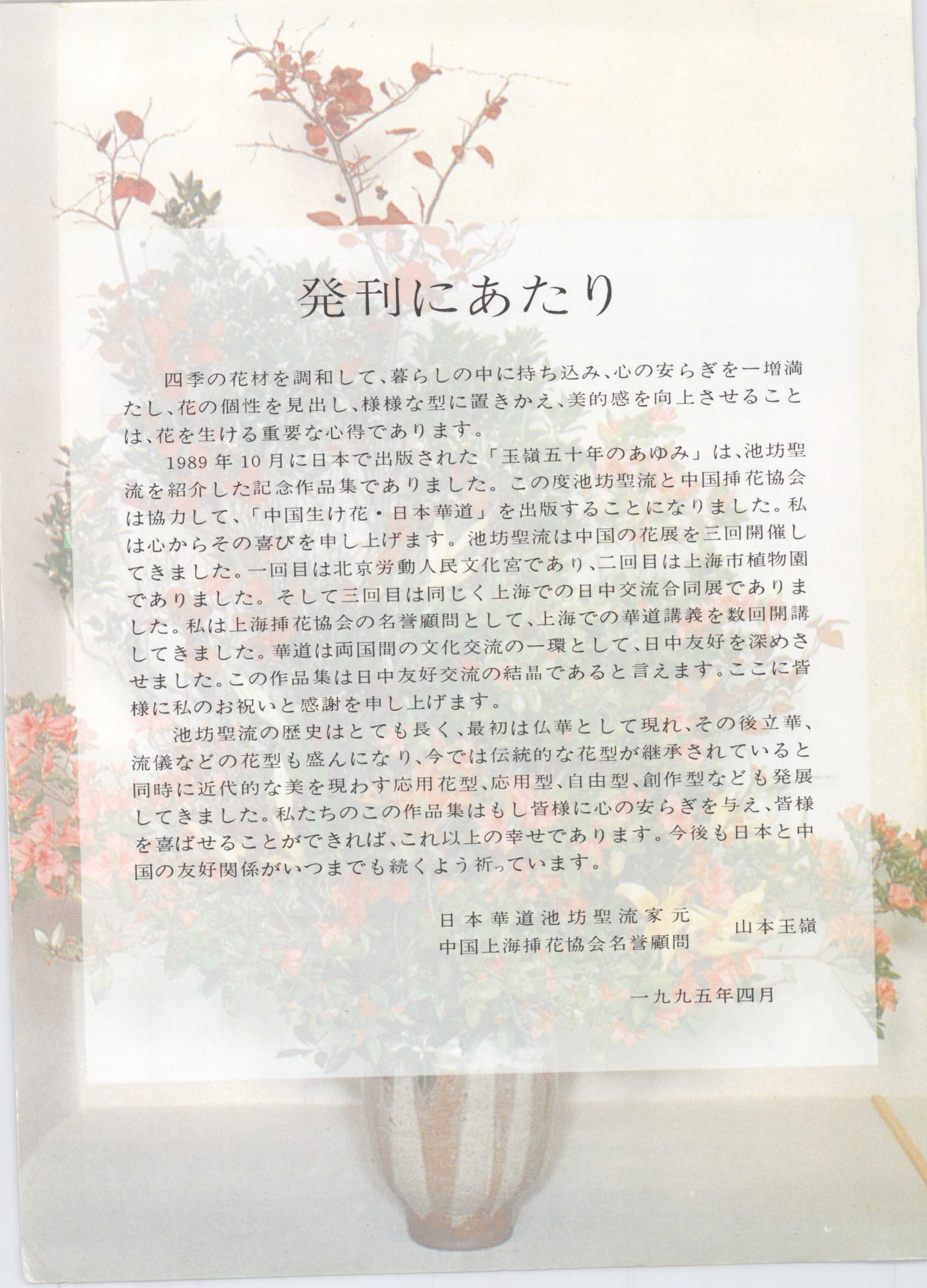
中国で插花が芸術のジャンルの一つに認められるようになったのは改革開放後のわずか十数年間のことであります。まさに孔子が「行有余力、則以学文」と言われた通り、生活の余裕があってこそ始めて插花芸術を発展させることができるのであります。わが国の人民の生活が日日上してこそ、初めて插花芸術の前途は輝かしいものになります。

魯迅先生が提唱された「拿来主義」とは、どの国の文化であろうと、役立つ優秀なものであれば、これを取り入れ、参考として自国の文化を豊かにせよということであります。この作品集に収められた日本の秀作 60 点の数数が必ずやわれわれに良き学習の機会を与えてくれます。

上海人民对外友好協会副会長
上海大学教授

杜 宣

一九九五年四月二十五日



発刊にあたり

四季の花材を調和して、暮らしの中に持ち込み、心の安らぎを一増満たし、花の個性を見出し、様々な型に置きかえ、美的感を向上させることは、花を生ける重要な心得であります。

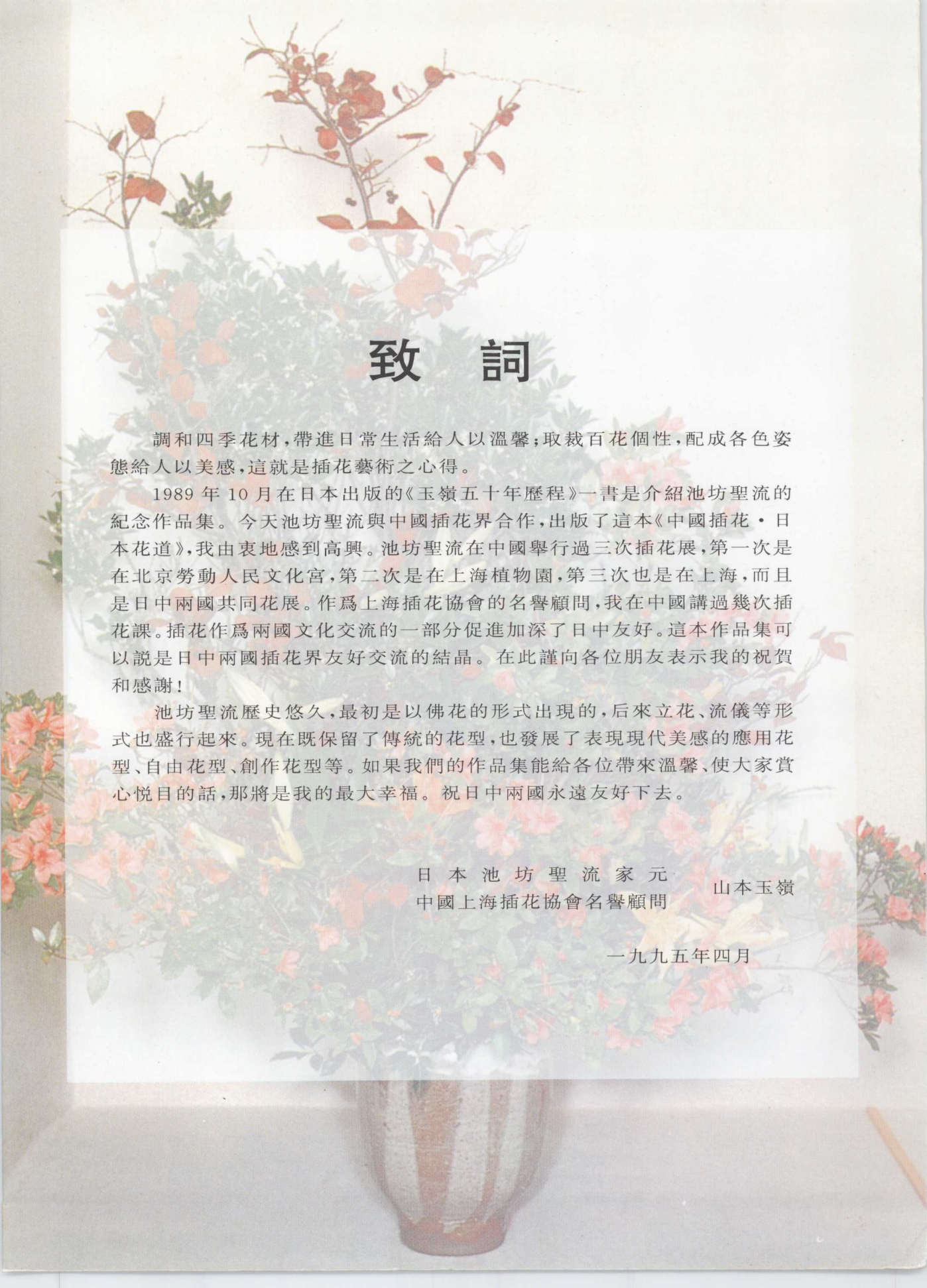
1989年10月に日本で出版された「玉嶺五十年のあゆみ」は、池坊聖流を紹介した記念作品集でありました。この度池坊聖流と中国插花協会は協力して、「中国生け花・日本華道」を出版することになりました。私は心からその喜びを申し上げます。池坊聖流は中国の花展を三回開催してきました。一回目は北京労働人民文化宮であり、二回目は上海市植物園でありました。そして三回目は同じく上海での日中交流合同展でありました。私は上海插花協会の名誉顧問として、上海での華道講義を数回開講してきました。華道は両国間の文化交流の一環として、日中友好を深めさせました。この作品集は日中友好交流の結晶であると言えます。ここに皆様に私のお祝いと感謝を申し上げます。

池坊聖流の歴史はとても長く、最初は仏華として現れ、その後立華、流儀などの花型も盛んになり、今では伝統的な花型が継承されていると同時に近代的な美を現わす応用花型、応用型、自由型、創作型なども発展してきました。私たちのこの作品集はもし皆様に心の安らぎを与え、皆様の喜ばせることができれば、これ以上の幸せであります。今後も日本と中国の友好関係がいつまでも続くよう祈っています。

日本華道池坊聖流家元
中国上海插花協会名誉顧問

山本玉嶺

一九九五年四月



致 詞

調和四季花材，帶進日常生活給人以溫馨；取裁百花個性，配成各色姿態給人以美感，這就是插花藝術之心得。

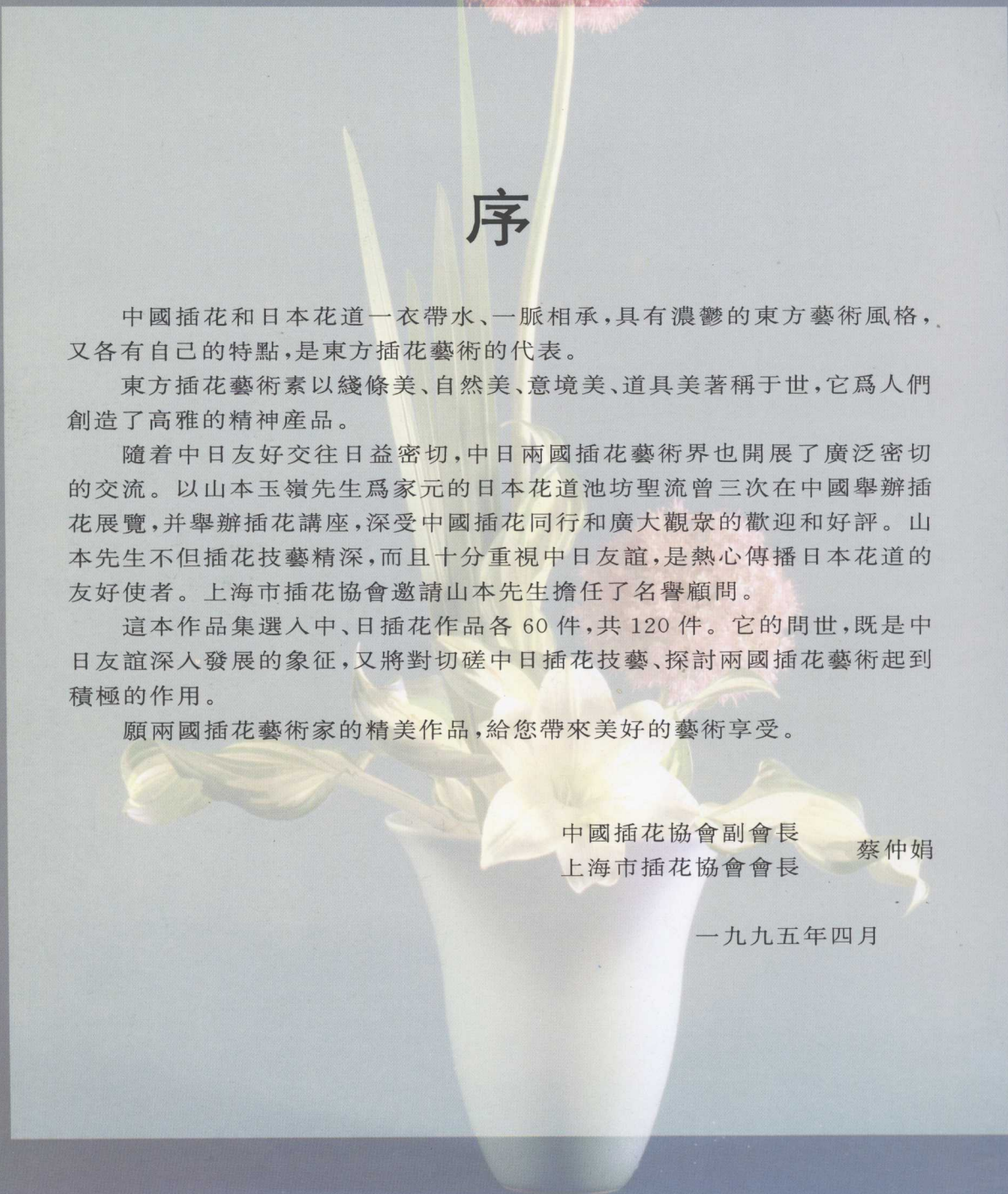
1989年10月在日本出版的《玉嶺五十年歷程》一書是介紹池坊聖流的紀念作品集。今天池坊聖流與中國插花界合作，出版了這本《中國插花・日本花道》，我由衷地感到高興。池坊聖流在中國舉行過三次插花展，第一次是在北京勞動人民文化宮，第二次是在上海植物園，第三次也是在上海，而且是日中兩國共同花展。作為上海插花協會的名譽顧問，我在中國講過幾次插花課。插花作為兩國文化交流的一部分促進加深了日中友好。這本作品集可以說是日中兩國插花界友好交流的結晶。在此謹向各位朋友表示我的祝賀和感謝！

池坊聖流歷史悠久，最初是以佛花的形式出現的，後來立花、流儀等形式也盛行起來。現在既保留了傳統的花型，也發展了表現現代美感的應用花型、自由花型、創作花型等。如果我們的作品集能給各位帶來溫馨、使大家賞心悅目的話，那將是我的最大幸福。祝日中兩國永遠友好下去。

日本池坊聖流家元
中國上海插花協會名譽顧問

山本玉嶺

一九九五年四月



序

中國插花和日本花道一衣帶水、一脈相承，具有濃鬱的東方藝術風格，又各有自己的特點，是東方插花藝術的代表。

東方插花藝術素以綫條美、自然美、意境美、道具美著稱于世，它為人們創造了高雅的精神產品。

隨着中日友好交往日益密切，中日兩國插花藝術界也開展了廣泛密切的交流。以山本玉嶺先生為家元的日本花道池坊聖流曾三次在中國舉辦插花展覽，并舉辦插花講座，深受中國插花同行和廣大觀眾的歡迎和好評。山本先生不但插花技藝精深，而且十分重視中日友誼，是熱心傳播日本花道的友好使者。上海市插花協會邀請山本先生擔任了名譽顧問。

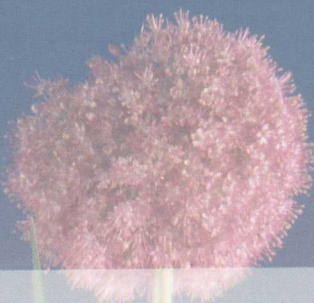
這本作品集選入中、日插花作品各 60 件，共 120 件。它的問世，既是中日友誼深入發展的象征，又將對切磋中日插花技藝、探討兩國插花藝術起到積極的作用。

願兩國插花藝術家的精美作品，給您帶來美好的藝術享受。

中國插花協會副會長
上海市插花協會會長

蔡仲娟

一九九五年四月



発刊にあたり

中国の插花(生け花)と日本華道も又、一衣帯水の関係にあり、一脈通ずるものがあります。共に香り高い東洋芸術の風格を持ち、それぞれ生け花として東洋を代表する特色をもっています。

東洋の生け花は、その線の美しさ、自然の美しさ、美の極致において、また花器の美しさなど万人周知のところであり、見る者の心に優雅な気持を起こさせてくれます。

中日友好の交流が日ごとに緊密になるに従って、両国生け花芸術界もまた広く盛んに交流が行われています。山本玉嶺先生を家元とする日本華道池坊聖流では、すでに中国で生け花展を三回も開催された一方、講習会も開かれ、中国插花界から高い評価を受けられるとともに、広く一般の人人からも愛好されているところでもあります。山本先生の華道は、精彩にして高遠、極めて芸術性の高いものでありますが、一方、中日友好については特に配意されています。上海市插花協会では、日本華道を情熱をもって伝授されている山本先生を当協会の名誉顧問にいただいています。

今、ここに中国と日本の創作各 60 点ずつ、合わせて120 点を作品集として出版することは、中日友好関係のうえに更に深まりをもたらすことの現れであり、両国生け花界の華道の交流と学術上の検討にも積極的な役割を果たすものであります。

中日両国生け花芸術に携わる人人の秀作の美を皆様方に享受していただくことを心から願います。

中国插花協会副会長
上海市插花協会会長

蔡仲娟

一九九五年四月

目 录

1

祝詞	杜 宣			
致詞	山本 玉嶺			
序	蔡仲娟			
作品一	山本 玉嶺	1	作品二十九 山崎 寿峯	28
作品二	蔡仲娟	2	作品三十 土屋 清亭	29
作品三	蔡仲娟	3	作品三十一 謝 明	30
作品四	山本 玉嶺	4	作品三十二 謝 明	31
作品五	山本 玉嶺	5	作品三十三 謝 明	31
作品六	王路昌	6	作品三十四 山本 玉嶺	32
作品七	王路昌	7	作品三十五 山本 玉嶺	32
作品八	山口 信峯	8	作品三十六 土屋 清亭	33
作品九	山本 玉嶺	8	作品三十七 王路昌	34
作品十	中尾 光峯	9	作品三十八 王路昌	35
作品十一	蔡俊清	10	作品三十九 山本 玉嶺	36
作品十二	蔡俊清	11	作品四十 山本 玉嶺	37
作品十三	山本 玉嶺	12	作品四十一 蔡仲娟	38
作品十四	山本 玉嶺	13	作品四十二 蔡仲娟	39
作品十五	丁穩林	14	作品四十三 山本 玉嶺	40
作品十六	虞文哲	15	作品四十四 永井 博峯	41
作品十七	中尾 光峯	16	作品四十五 丁穩林	42
作品十八	中尾 光峯	17	作品四十六 丁穩林	43
作品十九	虞文哲	18	作品四十七 永井 博峯	44
作品二十	虞文哲	19	作品四十八 日野 仁峯	45
作品二十一	北村 佳楓	20	作品四十九 張蓮芳	46
作品二十二	渡辺 翠玲	21	作品五十 張蓮芳	47
作品二十三	蔡仲娟	22	作品五十一 蔭山 邦峯	48
作品二十四	蔡仲娟	23	作品五十二 山本 玉嶺	49
作品二十五	溝端 良峯	24	作品五十三 蔭山 邦峯	49
作品二十六	石渡 慶月	25	作品五十四 張鶴皋	50
作品二十七	張蓮芳	26	作品五十五 張鶴皋	51
作品二十八	許恩珠	27	作品五十六 小林 益峯	52

目 錄

2

作品五十七 蔭山 邦峯	52	作品八十九 藤本 政峯	83
作品五十八 阪上 昭峯	53	作品九十 王路昌	84
作品五十九 蔡仲娟	54	作品九十一 謝 明	85
作品六十 蔡仲娟	55	作品九十二 丁穩林	85
作品六十一 辻ノ 結峯	56	作品九十三 出原 節峯	86
作品六十二 小林 益峯	57	作品九十四 溝端 良峯	87
作品六十三 王路昌	58	作品九十五 梁勝芳	88
作品六十四 王路昌	59	作品九十六 王路昌	89
作品六十五 山本 玉嶺	60	作品九十七 山本 玉嶺	90
作品六十六 山本 玉嶺	61	作品九十八 山本 玉嶺	91
作品六十七 虞文哲	62	作品九十九 蔡仲娟	92
作品六十八 虞文哲	63	作品一百 張鶴皋	93
作品六十九 謝 明	63	作品一百零一 山本 玉嶺	94
作品七十 松本 輝峯	64	作品一百零二 青山 絢峯	95
作品七十一 山本 玉嶺	65	作品一百零三 張蓮芳	96
作品七十二 張蓮芳	66	作品一百零四 張蓮芳	97
作品七十三 張蓮芳	67	作品一百零五 山本 玉嶺	98
作品七十四 山本 玉嶺	68	作品一百零六 溝端 良峯	99
作品七十五 山本 玉嶺	69	作品一百零七 丁穩林	100
作品七十六 王路昌	70	作品一百零八 蔡俊清	101
作品七十七 王路昌	71	作品一百零九 山本 玉嶺	102
作品七十八 虞文哲	72	作品一百十 射手矢 信峯	103
作品七十九 蔡俊清	73	作品一百十一 王路昌	104
作品八十 加覽 君峯	74	作品一百十二 虞文哲	105
作品八十一 日野 仁峯	75	作品一百十三 石渡 慶月	106
作品八十二 王路昌	76	作品一百十四 蔭山 邦峯	107
作品八十三 王路昌	77	作品一百十五 蔡仲娟	108
作品八十四 山本 玉嶺	78	作品一百十六 王路昌	109
作品八十五 山本 玉嶺	79	作品一百十七 蔭山 邦峯	110
作品八十六 朱永林	80	作品一百十八 山本 玉嶺	111
作品八十七 丁穩林	81	作品一百十九 山本 玉嶺	112
作品八十八 山本 玉嶺	82	作品一百二十 蔡俊清	113



作品一

◎花材 つつじ、やどりきのみ

作者 山本 玉嶺

◎材料 杜鵑、槲寄生果實



作品二 淡泊致遠

◎材料 綠掌、小葉迎春、姜葉、海桐

作者 蔡仲娟

淡泊幽遠

◎花材 アンスリウム、おうばい、ガランガ、どべら



作品三 神清骨秀

◎材料 鬱李、馬蹄蓮、馬蹄蓮葉

作者 蔡仲娟

清秀たる風骨

◎花材 にわうめ、カラー、カラーの葉



作品四

◎花材 まき、ゆり、どうだんつつじ、なるこゆり、 ◎材料 松、百合、吊鐘花、黄精、菊
菊

作者 山本 玉嶺



作品五

◎花材 つるうめもどき、ほく

作者 山本 玉嶺

◎材料 南蛇藤、樹椿